

(第3種郵便物認可)

第66回全日本バレーボール高校選手権大会(春高バレー)は6日、東京体育館で男女の2回戦各16試合を行った。県代表の男子・創造学園は佐賀商(佐賀)に2-0で、女子・都市大塩尻は八王子実践(東京)に2-0で、それぞれストレート勝ちし、16強入りを決めた。

創造学園は得意の3枚ブロックで流れをつかむと第1セットを25-20で先取

し、第2セットは25-14で相手を圧倒した。都市大塩尻はコンビバレーが機能して第1セットを25-18でものにし、第2セットも付け入る隙を与えずに25-16で完勝した。

7日は3回戦と準々決勝があり、3回戦で創造学園は駿台学園(東京)と、都市大塩尻は大和南(神奈川)と対戦する。(山浦雄一郎)



◇2回戦	▽男子	創造学 2	25	25	0	佐賀商
	▽女子	都市大 2	25	18	0	八王子実践
		塩尻	16	18	0	実践
		(東京)				(東京)

創造、都市大 そろって16強

【都市大塩尻―八王子実践】第2セット 終盤にアタックを決めて喜ぶ窪田①



都市大塩尻 2-0 八王子実践

都市大塩尻は前日の1回戦とは打って変わり、立ち上がりから伸び伸びとしたプレーで勢いに乗った。強豪の八王子実践を庄

攻守がっちり 納得の勝利

隆安監督は「自分たちの仕事がきちっとできた。初戦はちぐはぐだったが今日は良かった」と選手を手放しでたたえた。サブで崩して単調なトスを上げさせ、しっかりと2枚ター攻撃もさえた。ブロック、アタックと攻守で奮闘し

たセンター窪田美侑(3年)は「とにかくブロックポイントを取りたかったので、そこがよかったです。攻撃もいい形だった」と胸を張った。

前回の春高、今夏のインターハイと国体は全て16強止まり。8強を懸けた3回戦は国体で敗れた大和南が相手だ。岡田監督は「リベンジ」と雪辱を期し、牧田春奈主将(同)は「16強の壁を破りたい」と闘志を燃や

す。(山浦雄一郎)

■この記事・写真等は市民タイムスの許諾を得て転載しています。無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。